

議 事 録

1	会議名	美濃加茂市定住自立圏構想共生ビジョン懇談会（第1回）
2	開催日時	平成21年6月12日（金）19時から21時
3	出席者名	委員：山田實紘委員、鈴木登委員、則竹邦光委員、青柳芳男委員、井上正秋委員、加納好道委員、小坂秀人委員、洞口勝則（久門圭子委員代理）、高井正文委員、小笠原伸委員、渡辺厚委員 アドバイザー：細川昌彦 以上敬称略 市側：渡辺直由市長、宮口誠経営企画部長 行政経営課（事務局）総員3名
4	欠席者名	市橋達委員
5	議題	今後の望ましい圏域の姿やその実現に向けた取り組みなど
6	審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none">・ 定住自立圏構想（定住自立圏形成協定及び定住自立圏共生ビジョン）の概要、策定体制及び今後の検討の進め方について説明を行った。・ 今後の望ましい圏域の姿やその実現に向けた取り組みなどをテーマに、各委員から意見を伺った。
7	審議の内容	

別添次第及び資料に基づき議事を進行した。以下に要点を記す。

開 会

(省略)

1 市長挨拶

- ・ 外国人を含む多くの市民が、それぞれの生き方、それぞれの価値等を充実させながら、本市で生活することに幸せを感じられる、魅力あるまちを実現することが、定住と自立の地域づくりの中心市としての課題と認識している。
- ・ 昨年発生した世界規模での経済不況は、本市にも影響を及ぼしているが、厳しい環境下、改めて最低限の生活・安心の保障、より快適な生活を追求することが重要である。
- ・ 今後は、本格的に地域の快適性生産総量（GCP：Gross Comfortable Product）又は地域の幸福生産総量（GHP：Gross Happiness Product）が問われる時代となる。このような状況の中で、正に都会から地方へという人口の逆流をいかにつくり出すことができるのかが、定住と自立を実現する上での課題と考えている。

2 委員自己紹介

(省略)

山田座長	<p>3 座長及び副座長の選任 (事務局からの推薦に基づき、座長には山田委員、副座長には井上委員が選任された)</p> <p>4 定住自立圏構想の策定体制及びスケジュール (経営企画部長が資料2～4に基づき説明)</p> <p>5 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、定住自立圏構想を推進するために、国からどの程度補助をもらえるのかなど、予算にとられると全く先が見えなくなる。 ・ この懇談会では、今後、美濃加茂市が本当に住み良いまちになるにはどうしたらいいのか、まずは夢を語っていく、その中から出来ることをやっていく方が現実的だと思う。 ・ 本日は、1人3分を目安に各委員に夢を語っていただきたい。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政や大企業の縦割りの壁を取り払って、色々な夢のあるまちづくりを語っていききたい。 ・ 美濃太田駅と名古屋駅の交通の便は、「ワイドビューひだ」が1時間に1本しか運行していないなど、非常に良いようで実際には悪い。 ・ 夢を語るということであれば、思い切って名鉄の木曽川に鉄橋を架ける、坂祝と美濃加茂の間に新しく駅を設けてはどうかと思う。色々な箱ものを建設するより、一気に基本的なものを整備した方がよい。 ・ 少子高齢化が進む中、福祉や医療などバランスのとれたまちが基本だが、大きな目標を持ったまち、オンリーワンのまちづくりを進めるべきである。
則竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂市ほど交通の便利の良いまちはない。日本中でも、幹線国道が3路線も走っているのは、大都市以外にはないのではと思う。しかし、周辺の過疎地域はそうではない。 ・ 周辺の過疎地域の面倒を見るのは、非常にコストがかかる。このため、定住自立圏構想で、美濃加茂市と周辺市町村が1対1で連携することが果たして可能なのかと感じている。
青柳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂市は、歴史と自然に恵まれた素晴らしいまちだと思う。当社が市内に工場を建設したのも、交通利便性のほか、卵・牛乳・水など非常に新鮮な原料が手に入ることが大きな理由である。

青柳委員	<ul style="list-style-type: none"> 定住自立圏共生ビジョンには、市民が生活の中でより心の豊かさを感じられる取組みを盛り込んでもらいたいと思う。
井上副座長	<ul style="list-style-type: none"> 住み良いまちには色々な条件がある。その中には、スローフード、自分で食べるものを自分で作れるということがあり、自分はこれが一番の豊かさではないかと思っている。 美濃加茂市に住んでいて良かったと実感できる、これをもっと深めていくため、農業の立場からすると、市内を自動車で運転すると周囲にきれいな野菜畑がある、きれいな環境がある、そういうまちづくりを目指していくべきではないかと思う。 新鮮で安全・安心な野菜や名物の美味しい食べ物がすぐに手に入ることも、住んでみたいと思われまちな条件ではないかと思う。 水や緑、働く所、遊ぶ所など、色々なバランスをしっかりと考え、住みよいまちづくりを目指すべきである。
加納委員	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、当社のランニングコスト及び設備投資額は27億円だが、このうち、美濃加茂市内での調達額は18%しかない。それ以外のものは全て県外から購入している。 定住自立圏構想について、今後、当社が必要な物をもっと美濃加茂市内で購入する、当社がもっと市内にお金を落すようなことにつながっていけばいいと思う。 ビジョンの検討では、地域だけに閉じこもるのではなく、もっと外を見て勉強し、圏域として何が足りないのかということと比較した方が、視野が広がっていくと思う。
小坂委員	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の外からもっとお金が流れてくるようにすべきである。 また、例えば見習い制度を設け、学校を卒業した若者を対象に、地元の企業が研修を通じ技能を身に付けさせ、失業者を出さずに、彼らの発展を保障するような考え方もあるのではないか。
洞口委員	<ul style="list-style-type: none"> 昭和村には、これまで500万人以上もの人々が訪れている。しかし、これらの人々が市内まで足を伸ばすことは少ない。 昭和村を訪れた人々を市内にどのように引き込むか、そのためには新たな地域ブランドの開発等も必要ではないか。
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在、策定中の第5次総合計画でアンケート調査を実施したところ、次代を担う子どもたちの将来の定住意向が低いことが分かった。

高井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂市は全国でも住み良いまちの上位にランキングされているが、本当にそうなのか疑問を感じている。まちの中に刺激や情報が少ないのではないか。 ・ 人々が地域のことをもっとよく知ること、このことから本当の連携が始まるのではないか。
小笠原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、地域に何があるのかを探し並べ、これを具体的に活かして何が作れるのかを考えるためには人材育成が重要である。 ・ 美濃加茂市や周辺市町村を含めた圏域が、名古屋等の他地域に提供・交換することができる資源は何かを追求する必要がある。 ・ また、良いものがあるだけでは価値にならない。よいものを他地域に対してどのようにPRしていくのが非常に重要である。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂市と周辺市町村との得意分野同士を結び付け、強みを活かしていくことが必要である。
山田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂市は非常に住みやすいまちだが、その良さを市民が余りよく知らずにいる。美濃加茂市の良さをもっと多くの市民に知ってもらうべきである。 ・ もっと多くの良いものを掘り起こすとともに、今ある良いものをもっと良いものに伸ばしていくことが必要である。
細川アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取組みをどのように積上げていくのか、ビジョンを策定していくプロセスは、今後、定住自立圏構想を推進していく上で重要なポイントである。ビジョンの検討段階から、美濃加茂市と周辺市町村がしっかりと情報を共有すべきである。 ・ どのように圏域自体をブランド化していくのが重要であり、そのためには周辺市町村との情報共有や協力が必要不可欠である。 <p>6 その他 (事務局から今後のスケジュールを説明、市長から御礼の挨拶)</p> <p>閉 会</p>
8 会議資料	<ul style="list-style-type: none"> 資料2 定住自立圏構想推進要綱の概要 3 美濃加茂市定住自立圏構想中心市宣言書 4 定住自立圏構想の策定体制について 5 定住自立圏構想検討スケジュール